学校番号	306

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	公共	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	改訂版　公共　（数研出版）						
副教材等	最新公共資料集（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

持続可能な社会づくりをめざし、人間と社会との関わりに着目して現代の諸課題を考察することに加え、グローバルな視座から国際理解や国際協力のあり方を、地域的な視座からそれぞれの諸課題への対応を考察し、先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解することで、汎用的で実践的な公共的技能を習得する科目です。そのために、社会参画的な体験をともなう学習や、さまざまな諸課題を日常生活と関連づけて取り扱うことで、公民的な資質を身につけるとともに、社会参画の意義に気づき、社会との関わりについて考察できる力を身につけてもらいたい。

2　学習の到達目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ちグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質･能力を次のとおり育むことをめざす。

【知識及び技能】

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体な活動をするために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】

よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第1章　公共的な空間をつくる私たち	第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	a:青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。古代ギリシアや中国の思想家の思想や三大宗教の内容が理解できている。古代・中世・近世・近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。 b:自己形成の課題について考察できている。先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気づくことができている。生活文化や伝統が自分自身の生き方に与えている影響について気づくことができている。 c:よりよく生きることについての自覚を深められている。社会の一員としての自覚を深め、自分の生き方を選択し、自己実現がめざせている。先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、参考にできることはないか主体的に追究できている。日本の伝統思想や文化、受容した外来思想から自分自身の生き方を検証し、参考にできることはないか主体的に追究できている。	・発問評価 ・定期考査	・ワークシート作成 ・グループワーク取り組み ・発表 ・定期考査	・発表 ・プリント提出
	第2章　公共的な空間における人間としてのあり方生き方	第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	a:近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 b:先人の生き方を通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方が考察できている。公共的な空間における人間としてのあり方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。 c:選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、地球規模の環境保全など現代の諸課題を主体的に追究できている。	・発問評価 ・定期考査	・ワークシート作成 ・グループワーク取り組み ・発表 ・定期考査	・発表 ・プリント提出

	第3章　公共的な空間における基本原理	第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	a:法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できている。民主政治のあゆみが理解できている。日本国憲法の三大原理や第9条の内容が理解できている。国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。日本国憲法で保障されている権利が理解できている。 b:民主政治における国家と個人のあり方が考察できている。日本国憲法で保障されている権利がどのような具体的事件に適用されているのかを調べ、その保障と他者の権利や公共の利益との調和について考察できている。国際情勢の変化にともない、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのか考察できている。 c:民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。男女間や国籍の違いなど、身近なところで人権が保障されているか新聞記事などで調べ、報告できている。日本国憲法の基本原理に基づいた社会のあり方について、自分なりに構想できている。日本の安全保障について、諸外国との関係もふまえながら自分の意見が持てている。	・発問評価 ・定期考査	・ワークシート作成 ・グループワーク取り組み ・発表 ・定期考査	・発表 ・プリント提出
2	第4章　現代の民主政治と政治参加の意義	第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	a:日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できている。行政機能が拡大している現状を理解できている。選挙のしくみが理解できている。政党の役割を理解できている。地方自治の現状と課題が理解できている。情報リテラシーについて理解できている。 b:行政機能拡大の是非について主体的に考察できている。選挙制度によって政党政治の形態が変化することに気づくことができている。各党の綱領を調べ、その政策を知ることができている。日本の政治について課題を発見し、解決する見通しが持てている。住民投票など身近な地域で行われている例を調べ、報告できている。世論調査の結果の分析を行い表現できている。 c:模擬裁判などを通して、司法に関心を持ち、裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。議会の見学や住民運動･消費者運動など、身近に自らが参加できる機会を発見し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。模擬投票などの実施により、政党や選挙を身近に捉えることができている。身近な社会問題について、自分の意見が持てている。	・発問評価 ・定期考査	・ワークシート作成 ・グループワーク取り組み ・発表 ・定期考査	・発表 ・プリント提出

	第5章　現代の経済社会と経済活動のあり方	第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	a:現代の企業の果たしている役割が理解できている。市場経済のメカニズムが理解できている。各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解くことができている。政府が経済に果たしている役割を理解できている。金融･財政のしくみを理解し、経済状況に応じて実施される適切な手段を提示できている。戦後日本経済のあゆみが理解できている。産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。私法の特徴や契約の原則とその修正について理解できている。雇用･労働問題や社会保障について理解できている。 b:現代の企業倫理について考察できている。現代の資本主義経済でケインズ主義の有効な部分と改善すべき部分が判断できている。需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察できている。GDP が大きいことが豊かさにつながるのかどうか、豊かさについて自分なりに判断できている。不況や好況など景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できている。経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。公害がなぜ発生したのかを考察できている。雇用･労働問題や社会保障･福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できている。 c:市場機構だけでは解決できない経済的課題も多く、市場機構を修正している具体例を指摘でき自らの生活と結びつけて経済と接することができている。消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。超低金利が続いていた日本社会の現状について主体的に追究できている。経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている。失業率や公共事業のあり方に関心を持ち、新聞などで情報を集め、意欲的に現在の日本経済を探究できている。 雇用･労働問題や社会保障･福祉の課題について主体的に追究できている。	･発問評価 ･定期考査	･ワークシート作成 ･グループワーク取り組み ･発表 ･定期考査	･発表 ･プリント提出

3	第6章　国際社会の動向と日本の役割	第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力	a:国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。戦後の国際経済の流れが理解できている。地域経済統合が進んでいる世界の現状が理解できている。外務省や国連のホームページなどを参照し、国際社会や各国の課題を知ることができている。 b:集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。国連の現状と課題について考察できている。留学生や国際NGOと接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について判断できている。国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。円高などの為替相場の変動が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの克服のために自らがどのようなことができるか考えることができている。外国人観光客や外国人労働者を身近に見ることにより、経済のグローバル化の現状が理解できている c:国際社会で平和と安全を維持するため何が有効なのか、自ら意見が持て他者と意見の交流ができている。国際社会のなかで戦後日本の歩みを考察し、将来の展望を持てている。民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。留学生や国際NGOと接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について主体的に追究できている。発展途上国の貧困・飢餓や国際社会における日本の役割について関心が持てている。国際社会の課題について主体的に追究できている。グローバル化した国際経済について自分なりの課題や展望が持てている。	・発問評価 ・定期考査	・ワークシート作成 ・グループワーク取り組み ・発表 ・定期考査	・発表 ・プリント提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度